

2008年 4月 30日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2008年4月15日】

団体名 青梅自然誌研究グループ

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

青梅市両生類分布調査プロジェクト

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

青梅市にある代表的な里山環境である谷戸田(やとだ)には、季節毎に様々なカエル、イモリ、サンショウウオが産卵に訪れます。しかし近年では放棄されている箇所も多く、乾燥化して産卵しなくなった箇所も多くみられます。かつて身近に感じられたはずのカエルの声も少なくなっている……

両生類に関心をもつものとして、彼らの置かれている現状をもっと市民に伝えていかなければならないのではないかと、知らないがために様々な両生類が消えていくのを見過ごしていないか、なによりも同じ土地にすむものとして身の回りにいる生き物たちについて知らなさすぎるのではないかと、そのような想いからプロジェクトが始まりました。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

本プロジェクトは3カ年計画で実施してきましたが、2007年度はプロジェクトの総仕上げの年でした。本年度の活動は、まず青梅市全域での両生類の調査を完了させることでした。2008年3月にはこれまでの調査結果をもとに生息状況調査報告書を作成しました。この報告書は研究者・市民団体・自治体・教育関係者・図書館・郷土博物館に寄贈し、市民へも広く広報していく予定です。この他に、分布調査の結果、生息環境が悪化している箇所については、保全活動として産卵池の維持と見回りも行いました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

これまで青梅市で両生類全種を対象とした詳細調査は実施されていなかったため、自然誌研究的な意義は大きいと考えられます。また、調査に市民参加を呼びかけたり、両生類についての聞き取りを行ったり、できるだけ本プロジェクトへの参加や理解を得られるような機会を設けました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

今回の調査を行うまで、自分たちの住む町をこれほどつぶさに見て歩く機会はこれまでなく、自分たちの身の回りに、両生類をはじめこれだけの生き物たちが暮らしているのだということを改めて実感しました。また、同時に生き物たちの置かれている状況の厳しさも見え、問題の多さ、大きさにどうしたらよいかと思い悩んでしまいます。しかしまずは、自分たちがフィールドで見て感じたものを広く市民に伝えていくことから始めたいと思います。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり

報告書は別添、写真は本書末尾に添付しました。

活動写真

調査風景



トウキョウサンショウウオの卵

